

諏訪広域圏の位置及び地勢

■ 位置



■ 地勢

当地域は、長野県、広くは日本列島のほぼ中央に位置し、東経138度から138度24分、北緯35度48分から36度10分の範囲にあり、東西約35km、南北41km、周囲150kmで、面積は715.75km²、標高は諏訪湖で759m、最も高い八ヶ岳の主峰赤岳で2,899mあります。

周囲を山に囲まれ、諏訪湖を中心とする2市1町と、八ヶ岳山麓に広がる1市1町1村により盆地を形成し、その形状はフォッサマグナ（糸魚川・静岡構造線）を西端とし、それと平行に走る東端の断層との間の地溝帯にできた構造盆地であり、北西から南東方向にかけて細長く伸びています。

諏訪湖は諏訪盆地の北西に位置し、上川、宮川、砥川、横河川等の各水系が流入し、長野県一の大きな湖です。諏訪湖を中心とする平坦地は、湖に流入する河川の土砂によってできた沖積地で、河口では三角州上の地形をつくっています。

一方、八ヶ岳山麓は緩やかに傾斜した広々とした平地で、その中に集落が形成され、耕地が開け、八ヶ岳山麓特有の景観をつくっています。

気候は、位置と地形の関係上、きわめて顕著な内陸性気候の特性を示しており、寒暖の差が大きく、空気は乾燥して澄み、四季の変化に富んでいます。

また、地域内の高原には、多様な動植物が豊かに生息分布していることも特性となっています。